



こんにちは。大学で男女共同参画について勉強しているヨシタです。今回は移り変わる家族について考えましょう。

創業 (1883年)

後に四日市名物となるお菓子は専用の工場での製造。

職人はマスクと白衣着用。工場は男性の職人だけだった。

女性は商品の製造には触れられなかった。(力仕事であることと、また、女性に対する差別・偏見があり、工場には入れなかった。)女性は奥の仕事が主でお手伝いさんと呼ばれていた。

お菓子作りは男性の職場 (昭和30年代ころまで)

住み込み従業員と通勤従業員を養っていた。

代々の家長の妻は、お手伝いさんと共に、職人の世話が主な役割だった。

洗濯機の購入 (大量の洗物を洗濯板で洗っていた妻を見かねて、2代目が真っ先に購入)

【長谷川家の歴史】

【社会の動き】

1883

大日本帝国憲法発布 (1889)

1910

平塚らいてう 青鞥社設立 (1911)

ILO (国際労働機関) 設立 (1919)

ちゃぶ台が家庭に普及。

一家団圓の象徴に

1930



太平洋戦争勃発 (1941)

1940

婦人参政権が実現 (1945)

日本国憲法施行 (1947)

1950

「太陽の季節」 芥川賞受賞 (1955)

冷蔵庫・洗濯機・掃除機が三種の神器ともてはやされる。(1957)



1960

核家族の割合が7割近くを占める (1961)

市川房枝記念会設立 (1962)

モーレツ社員が流行語に (1965)

新三種の神器(車・クーラー・カラーテレビ)の時代へ (1966)

山口百恵引退 (1980)



1980

男女雇用機会均等法成立 (1985)

女子差別撤廃条約批准 (1985)

女性が結婚すると、家庭に入ることがまだ一般的であった。

育児休業法施行 (1992)

ILO156号条約批准 (1995)

男女共同参画社会基本法施行 (1999)

DV防止法施行 (2001)

三重県男女共同参画推進条例施行 (2001)

Windowsが普及し、インターネットが家庭にも浸透 (1995)

海外在住の家族達とも、インターネットを通じて情報を共有できる。

ビジョンとしては女性が活躍できる職場にしたい。

現在店先の切り盛りは、4代目社長の妻と女性社員がしている。

店のホームページ開設 (1994年)

一族のファミリーメール始める (1998年頃)

製造の機械化 (1965年)

株式会社化 (1966年)

機械化により、商品の製造に多くの職人が必要でなくなった。男性の職人がいなくなった。職人さんは「暖簾分け」をしてそれぞれ店を構えた。現在の主力商品は機械で、他の伝統菓子は昔ながらの手作り製法で、ほとんどが女性の職場となる。

今回お話を伺ったのは、四日市市で和菓子店を営む、長谷川さんご一家。創業120年を迎える老舗で、そのお菓子は四日市名物にもなっています。戦前は、男性がお菓子の製造、女



性は家の仕事と、はっきり役割が決まっており、当主のおかみさんでさえ、店先に出ることはなかったそうです。

昭和40年代の機械導入を契機に、製造の中心は女性に移行していきました。「将来は創造力を発揮できる『女性の職場』にしたいですね」と、その思いを女性の職人募集へと膨らませていきました。そして、グローバルな情報を120年の老舗にリンクし、新世紀の和菓子づくりに挑戦したいと、夢多く語ってくださいました。

町並みとその歴史を語る四日市の商店街も、時代とともにその姿を変えてきました。「でも、そこに暮らす人々は、世代の違いはあっても、まちを愛する気持ちは同じ。もう一度かつての賑わいを取り戻そうと、皆で頑張っているんですよ。」

老舗の和菓子店を通して、日本の家族の移り変わりを垣間見たような気がしました。

長谷川さんの家族は、いくつかの大きな転機を経験して、今のカタチになったんですね。他にも大きな転機を経験した家族にお会いしてきました。